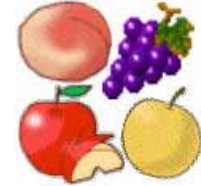




平成22年度 果樹情報 第10号

(平成22年8月9日)



福島県農林水産部研究技術室

1 気象概況 (7月4～6半旬：果樹研究所)

平均気温は、4半旬が27.9 で平年より4.8 高く、5半旬が28.8 で平年より4.1 高く、6半旬が27.1 で平年より1.4 高く経過しました。この期間の降水量は30.6mmで平年の48%でした。

2 土壌の乾燥状態 (果樹研究所)

8月1日現在の土壌水分(草生栽培リンゴほ場：無かん水)は、深さ20cmで2.9、深さ40cmで2.3、深さ60cmで2.3であり、深さ20cmは乾燥傾向となっています。

3 生育概況 (8月2日現在：果樹研究所)

表1 主要品種の果実肥大(暦日比較 果樹研究所8月2日調査)

果実肥大	モモ				ナシ				リンゴ			
	あかつき		ゆうぞら		幸水		豊水		つがる		ふじ	
	縦径	側径	縦径	側径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
実測値(mm)	68.8	78.6	56.9	55.1	52.1	64.8	49.9	56.1	64.0	74.2	59.7	65.6
平年比(%)	105	109	103	102	99	101	95	97	97	98	101	102

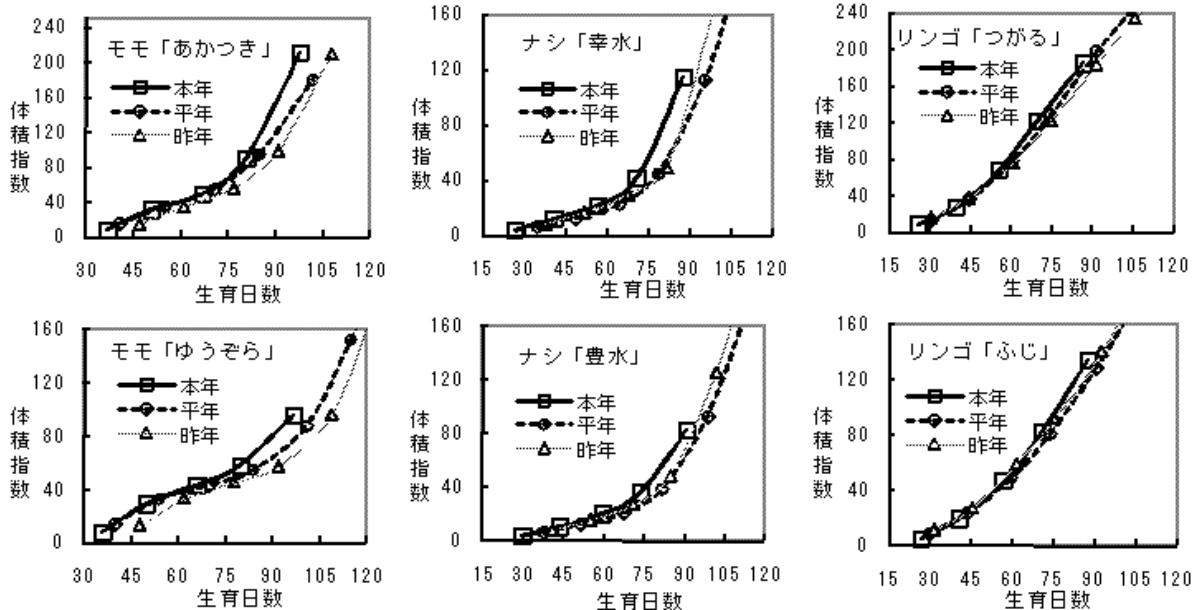


図 主要品種の果実肥大 (果実の生育日数比較 果樹研究所 8月2日調査)

(1) モモ

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は平年比105～109%と大きく、「ゆうぞら」は平年比102～103%とやや大きい状況です。果実の生育日数による比較では、両品種ともに平年より大きい状況です。

「あかつき」の新梢生長(満開後90日)は、長さが平年比111%と長い状況ですが、新梢停止は平年より早い状況となっています。

「日川白鳳」の収穫始めは7月15日で平年より3日遅く、収穫盛りは7月20日で平年より1日早まりました。果実の大きさは228gで平年並み、糖度は11.5で平年よりやや高い状況でした。「暁星」の収穫始めは7月26日で平年より3日遅く、収穫盛りは7月29日で平年より2日遅れました。果実の大きさは224gと平年より大きく、糖度は13.1で平年よりやや高い状況でした。

果樹研究所における「あかつき」の収穫始めは8月3日で平年並み、「白鳳」の収穫始めは8月5日で平年より3日遅れました。

表2 モモの主要品種の収穫期と果実品質（果樹研究所調査）

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			果重(g)			糖度		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
日川白鳳	7/15	7/18	7/10	7/20	7/21	7/12	7/26	7/23	7/17	228	220	254	11.5	10.9	12.2
暁星	7/26	7/23	7/17	7/29	7/27	7/21	8/ 2	7/31	7/24	224	204	242	13.1	12.7	14.0
白鳳	8/ 5	8/ 2	7/27	未	8/ 6	7/31	未	8/10	8/ 3	未	252	329	未	11.7	11.6
あかつき	8/ 3	8/ 3	7/28	未	8/ 7	7/31	未	8/12	8/ 6	未	243	319	未	12.6	11.7

未は未確定

(2) ナシ

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は平年比99~101%とほぼ平年並み、「豊水」は平年比95~97%とやや小さい状況です。果実の生育日数による比較では、両品種ともに平年より大きい状況です。

「幸水」の新梢生長（予備枝：満開後80日）は、長さが平年比120%と長く、葉数は平年比109%と多い状況です。なお、新梢停止（予備枝）は7月23日で平年より8日遅い状況です。

「幸水」の裂果発生率は0.5%で、平年より少ない状況でした。

果樹研究所によると、「幸水」の収穫期は平年より5日遅いと予測されています。

(3) リンゴ

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は平年比97~98%とやや小さく、「ふじ」は平年比101~102%とほぼ平年並みでの状況です。果実の生育日数による比較では、「つがる」はほぼ平年並み、「ふじ」は平年よりやや大きい状況です。

「つがる」の果実成熟（満開後84日）は、果実の生育日数で平年と比較すると硬度や糖度は平年並みですが、リンゴ酸の減少やデンプンの抜けは平年より進んでいます。

(4) ブドウ

果実の着色開始は、「巨峰」は7月22日で昨年より3日遅く、「あづましずく」は7月19日で昨年より7日遅れました。

4 栽培管理上の留意点

(1) 土壌の乾燥対策

ア かん水

ほ場の乾燥状態を確認し、乾燥している場合には積極的にかん水を実施しましょう。

盛夏期における果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6~7mm、曇天日で2~3mm、平均で4mm程度です。1回のかん水は25~30mm(10a当たり25~30t)を目安とし、5~7日間隔で実施します。また、保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくし、かん水間隔を短くすると効果的です。

なお、モモでは収穫5~7日前からのかん水は糖度低下につながりやすいので、かん水が必要な場合は早めを実施しましょう。

イ 草刈り、マルチ

草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを実施しましょう。また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) モモ

ア 中生品種の収穫

「あかつき」の収穫開始は平年並みとなっています。核割れ果や胚に障害を受けている果実が多い場合は、果肉の成熟が早まりやすい傾向があるため、果肉の軟化に注意し収穫が遅れないようにしましょう。

イ 晩生品種の収穫前管理

晩生種の収穫期も平年並みに推移すると予想されます。今後、「川中島白桃」「ゆうぞら」等については果実肥大が盛んな時期に入るので、適期に修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理を計画的に実施しましょう。

(3) ナシ

ア 修正摘果

「幸水」では裂果期が終了しているので、速やかに修正摘果を実施しましょう。摘果では、裂果した果実、変形程度の著しい果実、果点コルク間の地色が白い果実（肥大が停滞しやすい）、満開後100日頃の横径が60mm未満の小さな果実を整理し、最終着果量とします。「豊水」では満開後100日頃を目安に小玉果と変形果を摘果します。

(4) リンゴ

ア 落果防止剤散布

「つがる」に落果防止剤を使用する場合は、時期が遅れないように注意してください。

イ 早生種の収穫前管理

「つがる」や「さんさ」では、果面の30%程度が着色した頃から葉摘みを実施します。気温の高い日が続く場合には日焼け果の発生が懸念されるため、果そう葉と新梢葉の2回に分けて摘葉を実施します。

ウ 修正摘果

中晩生品種は、果実の大きさ、果形、サビ、日焼けの有無等に注意して修正摘果を行います。

(5) ブドウ

ア 摘心（長梢せん定栽培）

一定の葉数が確保された8月以降の摘心は、果実品質の向上と新梢の充実が期待できます。8月上旬になっても伸長が続いている強い新梢は、20～25葉程度を目安に摘心します。また、新梢から発生した勢力の強い副梢は、基部の2～3葉を残して摘心します。なお、摘心後も棚下が暗い場合は、新梢の間引きを行います。必要最小限とします。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病害

ア リンゴ斑点落葉病、輪紋病、炭疽病

この時期の降雨は、斑点落葉病の発生や輪紋病の果実感染を助長するため、8月上旬の防除を徹底してください。また、炭疽病の発生にも注意してください。

イ モモ灰星病、ホモプシス腐敗病

天候の推移に注意し、中生種では灰星病、晩生種では灰星病とホモプシス腐敗病の防除を徹底してください。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

第4世代幼虫の防除適期は8月1半旬頃、第5世代幼虫の防除適期は8月4半旬頃と推定されます。発生が多い園では防除を徹底してください。近隣に放任園がある場合は、特に注意しましょう。

イ モモノゴマダラノメイガ

発生が多い地域では、中晩生種を対象に8月中～下旬の防除を徹底してください。

ウ ナシヒメシンクイ

第3世代幼虫の防除適期は平年並の8月2半旬頃と推定されます。第3世代以降はナシ果実への寄生が増加するので防除を徹底してください。

エ カメムシ類

本年のカメムシ類の果樹園への飛来は全般的に平年並ですが、一部地域では被害が報告されています。山間及び山沿いの果樹園ではカメムシ類の被害を受けやすいので、飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょう。

オ ハダニ類

高温乾燥条件が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉に1～2頭）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。